



- ・「森林環境税」の趣旨を県民の皆さまにご理解いただくとともに、森や山に関する一層の理解や関心を深めていただくことを目的として、森林環境情報誌「もりりん」を年2回発行。83,000部を作成し、県内全幼稚園、保育施設及び小中学校、量販店、公共施設等に配布。
- ・毎号読者アンケートを実施しており、令和7年7月に発行した第14号に寄せられた森林環境税へのご意見を抜粋してご紹介するもの。（※ご意見については主旨を変えない範囲で要約しています。）

【アンケート結果の概要】

- ・アンケート回答数：330件 うちご意見の記載283件 うち森林環境税に関するご意見：75件（26.5%）→税に関して高い関心を示し、ほとんどが肯定的なご意見。
- ・アンケート回答者の男女比 男性：21% 女性：79%
- ・アンケート回答者の年齢層 20歳未満：7.4%、20代：5.8%、30代：27.2%、40代：23.4%、50代：16.0%、60歳以上：20.2%
- ・約4割が30代～40代の女性→幼稚園や保育所、学校等への配布を通じて親世代への普及啓発に寄与。

税の必要性について賛同するご意見

「森林環境税は高知県の豊かな森林を守るために必要」という趣旨のご意見を多くいただいた。また、「県民みんなで負担する」という公平性を肯定的に捉えていただいている。

- ・高知県の豊かな自然を守っていくためにも、森林環境税は重要。
- ・高知県は森林面積が広いので、その整備などのための税金は県民全体で負担するというのは仕方がない。
- ・大切な資源を守るために必要な税金だと思う。みんなで負担するのは良いこと。私も間接的に関わっていると知り、誇りに思う。
- ・年額1人500円で高知県の豊かな森林を整備できるのは、税金として支払う価値がある。
- ・子どもたちの代まで、高知の山やそこに関わる方達が元気でいてくれるために、森林環境税は大切だと思う。

税や税の使途の認知度に関するご意見

「もりりん」を通じて森林環境税の存在やその使途への理解が深まり、その意義を前向きに捉えるきっかけとなっている。

- ・県民税に森林環境税が入っていることを知らなかったのが、知れて良かった。普段何に使われているかわからないことが多いので、もっと知らなくてはいけないと思った。
- ・森林環境税の存在すら知らなかったのが、本誌を読んで驚いた。明確でクリアな税金の使い道を嬉しく思った。
- ・森林環境税の存在は知らなかったが、子ども達が自分の生まれ育っている高知の自然について学ぶ機会をもつことに繋がっていると思うと、いい取り組みだと思う。
- ・自分達が支払っているお金が何に使われているかを知ったことで、税金をポジティブに捉えることが出来て良かった。
- ・県民一人ひとりが納めている森林環境税について、どんな事に使われているか知らない人が多い気がする。周りの知人に伝えたり、自分自身が行っているおもちゃの活動を通して伝えたりしていきたい。
- ・森林環境税がどのようなことに使われているのか、知ることができて嬉しかった。活用額を知る機会があるとありがたい。
- ・森林環境税の目的や使い道を知ると、税の負担感だけではなく、高知の緑を守るために有意義に使ってくれているんだと知ることできる。このような冊子で取り組みの啓発をしていただくのは大切。

税の制度や税の使途等への要望

担い手対策・林業事業体への補助・森林環境学習・税の広報・幅広い年代が参加できるイベント等の機会の創出・鳥獣被害対策等への活用を要望する意見をいただいた。

- ・林業をしている人、頑張っている人に税金を使ってほしい。
- ・大切な環境保護に役立ててほしい。林業に関わる業者に、税の還元や補助等が必要だと思う。
- ・子どもへの森林環境学習も広く行っていただき、将来の森林の守り手を育ててほしい。
- ・森林環境税の用途等について、さらに広報してほしい。
- ・森林環境税の取り組みを身近に感じるものがなく、もっとシニアや大人の私達が参加できる推進事業があればいい。
- ・全国一の森林率という環境を活かし、「こうち山の日」などの子どもが参加できるイベントをもっと沢山実施してほしい。
- ・動物による被害が増えているので、その対策にもっと利用してほしい。